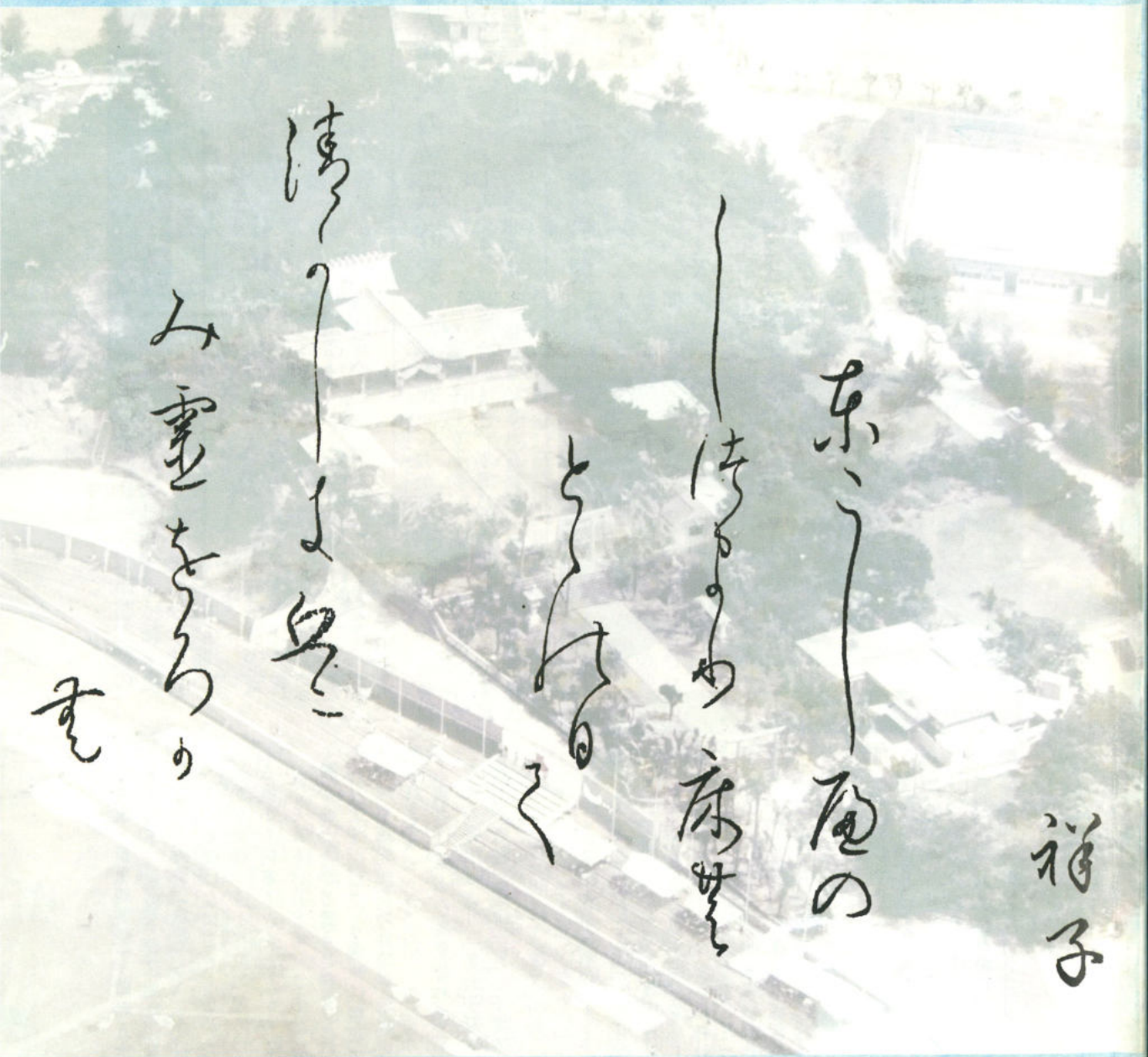
平成20年10月1日発行

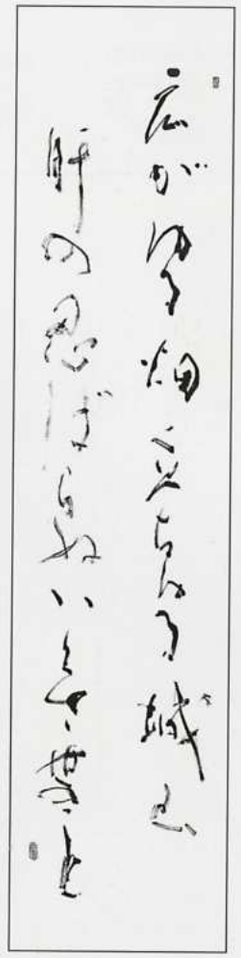
沖縄県護国神社社報

うむい 九号



第50回記念 秋季例大祭特別号

奉祝・天皇陛下御即位二十年



皇太子殿下時代の琉歌御歌

広がゆる畑　立ちゆるしろやま
肝乃志のはらぬ　いくさ世の事

今上陛下におかれましては沖縄への特別な思いを抱かれ折にふれ様々にお詠み下さっています。写真は那覇市在住の香村安紀様が奉納された掛軸（揮毫　うるま市在住の書家・新里明美様）。昭和五十一年当時皇太子殿下、妃殿下伊江島にご訪問の時に、詠まれた御歌（琉歌）で、「今目の前に広がっている畑はなにごともなかったように穏やかな風情。そして私の後ろにそびえている城山も何事もなかったかのようにそびえているんだけれども、この地にあんな醜い戦があったかと思うと耐えられない思いでおります。」という意味に解釈できますと、沖縄学研究所長の外間守膳氏が解説しております。

歌碑は城山の展望台の近くに伊江島の人々の寄附により「皇太子殿下、皇太子妃殿下御来村記念碑」として建てられています。

天皇陛下最新琉歌御製

国立劇場沖縄に開き
執心鐘入見ちやるうれしや

天皇皇后両陛下が、平成十六年一月二十三日国立劇場おきなわ開場記念公演に御臨席になられましたときの御製。組踊「執心鐘入」をご覧になった天皇陛下がお詠みになったものです。

沖縄県が行幸啓を記念し、国立劇場おきなわ及び沖縄芸能界において後世に語り継ぐため御製碑を建立しました。

おきなわ国立劇場前歌碑

表紙の御歌解説

昭和三十四年に北白川祥子様が御来島され護国神社に立ち寄られた際、荒廃した境内をご覧になられ神社復興にご配念賜りました。それから六年後の昭和四十年に社殿が完成し遷座祭が斎行された。その時にお詠みになられた御歌。

とこしへの
　しつまり床の
　　ととのひて
清がしき丘に
　み霊をろがむ

御即位二十年に秋季第五十回記念例大祭を迎えて

筆舌に尽くせぬ苦労を偲ぶ

宮司　伊藤　陽夫（はるお）

戦後復興期の沖縄は、筆舌に尽くせない苦労がありましたことでしょう。現会長の座喜味和則氏の青年時代がスッポリ重なる時代でもあります。米軍占領下にありながら民族の独立覇気のめばえが自覚されはじめた頃、当時の先人たちが苦労を重ねてこの奥武山に沖縄県護国神社の仮殿を設立してくれました。それから五十年、半世紀の年月は当神社にとっても筆舌に尽くせない労苦の連続であったことを、聞かされております。

ヤマトで子供だった愚生も疎開先で食糧・衣料難のなか着のみ着のまま、飢えをしのぐため川べりの雑草もなくなるほどの生活でした。墓地に植えたさつまいもの蔓まで食べ、給食の藁入りの黒パンが懐かしく思い出される世代ですから、同悲同喜の体験を多少同日に語ることができます。

沖縄では特に占領軍の食料補給があったので、メリケン粉のパンなど代用食で餓えをしのいだことでありましょうが、当時昭和天皇のお食事も国民と同じような質素な献立でありました。ある日米軍のメリケン粉でパンを作ってさしあげたところ、私も国民と同じく黒パンでよいと厳しく注意をうけたと、当時の料理人の回想記にあります。さらに純米に近いご飯を見て、国民と同じ麦飯を要求され続けたこともあれ伺っております。その昭和天皇が敗戦焦土と化した日本全国津々浦々、延べ百六十五日、三万三千キロを寝食を厭（いと）われず、国民を見舞われ、勇気づけられた記録は国民周知の通りでありますが、その慈悲にみちる御聖徳の実態はなぜか未だに沖縄県民一般の皆さんには知らされていないようです。

思わざる病となりぬ沖縄を
たづねて果たさむつとめありしを
（昭和六十二年御製）

との無念の思いを遺されたまま崩御されたあと、今上陛下がその大御心を承け継いで今や国内の慰霊巡礼を尽くされて、海外にも行幸啓を重ねられ英霊戦災の御霊たちの冥福、遺族たちの安寧を祈り続けて下さっています。

沖縄には昭和五十年、沖縄国際海洋博覧会の開会式に立太子後初めての行啓として皇太子・同妃両殿下が御来島になられました。真っ先に南部戦跡の慰霊に向かわれました。そのとき心ない暴徒の事件がありました。マスコミや日教組にミスリードされた反日・反皇室の左翼グループが糸満市の街路では民家の階上からお召し車に牛乳瓶や卵を投げつけたり、ひめゆりの塔では洞窟に隠れていた暴徒が火炎瓶を投げつけた事件です。しかし両殿下の決然たるそして平然たるお態度と、そのあとの日程上寸分の変更もないさわやかなお姿は、県民の心を打ちました。

その夜遺族の主要な方々には特別に懇ろないつくしみといたわりのお言葉がありました。「私たちは沖縄の苦難に歴史を思い、沖縄戦における県民の傷跡を深く顧み、平和への願いを未来に繋ぎ、ともどもに力をあわせて努力していきたいと思います。」と切り出されて、「払われた多くの尊い犠牲は、一時の行為や言葉によってあがなえるものではなく、人々が長い年月をかけて、これを記憶し、一人ひとり、深い内省の中にあって、この地に心をよせ続けていくことをおいて考えられません。」と思いやってくださっています。当時遺族会役員であった座喜味会長などはその警咳に接しておられます。

第二回目は翌年の一月の閉会式の時、伊江島に降りられています。本誌前号でふれました逸話のあと、お召しの車は城山（ぐすくやま）の中腹展望台まで昇りました。表紙裏（右頁）に掲載されている御製がそのときお詠みになった、殿下初めての琉歌です。

（七ページに続く）

護国神社五十周年をふり返って

沖縄県護国神社会長
座喜味 和則

暑い夏が終り秋の季節となりましたが皆様には益々御清祥の事と拝察致します。今年は国内で唯一の地上戦が展開され二十万余の尊い生命が犠牲となった沖縄戦が終って六十三年目を迎えています。沖縄県護国神社も沖縄戦で一部被害を受けましたが関係者の切なる願望で戦後十四年目の昭和三十四年四月二十三日に「仮社殿」を建立して第一回春季例大祭を催す事が出来ました。続いて同年十一月十五日に靖國神社より御霊代をお迎えし靖國神社池田良八権宮司が斎主となって第一回秋季例大祭を斎行致しました。この大祭で沖縄県出身全戦没者の外に本土各都道府県出身沖縄戦戦没者を新たに合祀申し上げました。

想えば仮社殿当時は、この奥武山一帯は道路未整備で施設や民家も無く全くの辺鄙な所でありました。春・秋の例大祭には県下の遺族が多数参列して賑わっておりましたが日常は参拝もなく寂しい神社でした。大晦日には沖縄県遺族連合会青壮年部員約五十名が午後十一時に集ってキャンプファイヤーをして新しい年を迎えていました。昭和三十七年に入り、神社復興の気運が高まり二月十四日に社団法人沖縄県護国神社復興期成会が設立され、早速神社再興の募金が始まり県内各企業、団体及び戦没者遺族や個人有志の外に全国知事会、全国靖國神社会などからも多数の寄付を頂戴致しました。特に県内各小・中学校の学童から一仙（当時沖縄は米ドル使用）募金が行われ全県・全国的な温かい募金が寄せられました。昭和三十九年七月二十四日に本殿・拝殿の地鎮祭、約一年四ヶ月の工期を経て昭和四十年十一月に竣工、十一月十九日に夜、仮社殿の御霊代を本殿にお遷しする遷座祭が無事行われ、翌二十日午前十時より奉祝祭、天皇陛下からの御幣物奉供、靖國神社筑波宮司御夫妻、北白川祥子靖國神社崇敬者代表、岩重隆治沖縄県護国神社復興本土側世話人のご参列。県内の来賓、遺族の参列者一万人を数える盛大な祭典でありました。さぞかし御祭神もご安堵得た事と存じます。爾来当神社は県民から親しく慕われ平和の守り神として尊崇されており、ここ数年二十万余の初詣者が訪れる県下一の神社と言われる程に年々隆盛して参りました。

今年は再建五十年目に当り「沖縄県護国神社第五十回記念秋季例大祭」を迎える事になりました。五十年をふり返り御祭神の益々の弥栄を祈り感謝の記念行事を企画しております。これひとえに県民皆々様のご支援によるもので誠に感謝に堪えません。

只今神社周辺ではプロ野球の出来る奥武山野球場の建設が進められ平成二十二年に完成、併せて駐車場などの環境整備も進められています。

当神社も平成二十二年を目途に「社務所と参集殿」を併せた建物（地上一階、地下二階）の建設と境内の整備、植樹等を計画しております。どうか今後とも更に一層のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

護国神社この一年

「第四十九回秋季例大祭」

平成十九年十月二十三日、第四十九回秋季例大祭が御遺族、崇敬者多数参列のもと斎行された。祭典では、斎主伊藤陽夫宮司の祝詞奏上に続き、大祭委員長座喜味和則沖縄県護国神社会長、沖縄県遺族連合会仲宗根義尚会長がそれぞれ祭文を奏上した。また、MOA山月光輪花より献華が行なわれ、靖國神社宮司を始め全国護国神社会会長、日本遺族会会長、神社本庁統理ほか全国各地から慰霊電報及び祝辞が寄せられた。

祭文を奏上する座喜味会長

「大祓式」・「除夜祭」・「歳旦祭」の斎行

平成十九年十二月三十一日に年越しの大祓式を行い、新年を迎えるにあたってお清めの儀式が行なわれた。明けて平成二十年一月一日零時に除夜祭を斎行し、翌朝歳旦祭を斎行し新しい年に向けての祈願が行なわれた。正月三ヶ日の御社頭は二十四万人の参拝で、県内一の参拝者で賑わった。

「第五十回春季例大祭」

平成五十年四月二十三日、第五十回春季例大祭が斎主伊藤陽夫宮司のもと斎行された。祭典では、大祭委員長座喜味和則沖縄県護国神社会長、沖縄県遺族連合会仲宗根義尚会長がそれぞれ祭文を奏上した後、裏千家淡交会沖縄支部の野立てが行なわれ献茶された。また航空自衛隊那覇基地太鼓部による奉納太鼓も行われ、靖國神社宮司を始め全国護国神社会会長、日本遺族会会長、神社本庁統理ほか全国各地から慰霊電報及び祝辞が寄せられた。

「戦没者総合慰霊祭」

平成二十年六月二十三日（慰霊の日）、戦没者総合慰霊祭が斎行された。正午の時報に合わせて黙祷がさげられ、御遺族多数が列席する中、斎主伊藤陽夫宮司のもと祭典が厳粛に執り行なわれた。

「夏越大祓式」

夏越大祓い

平成二十年六月三十日、境内に斎場を設け半年の厄を落とすための大祓式が行われた。夕刻、大祓詞に併せ大祓人形・神札をお焚き上げし、無病息災を祈願した。

「終戦記念日みたま祭り」

平成二十年八月十五日正午より、英霊にこたえる会沖縄県本部共催、沖縄県遺族会後援による「終戦記念日みたま祭り」が斎行された。祭典は全国戦没者追悼式のラジオ放送にあわせ黙祷し、引き続いての今上陛下のお言葉を拝聴した後、斎主伊藤陽夫宮司の祝詞奏上、英霊にこたえる会沖縄県本部会長の祭文奏上が行なわれた。

沖縄県護国神社総代会設立

総代二十一名決まる
代表に比嘉良雄氏、副代表に宮城　繁氏

戦後仮社殿復興以来今年は五十回目の例大祭を執り行う節目の年を迎えました。そこで更なる神社の発展を目指しこれからの時代要請に応えるため、このほど総代会を設立する運びとなりました。

神社代表役員座喜味会長をはじめ四名の役員により選考委員会を開催し二十一名の総代が推薦されました。遺族会五名、英霊協賛団体五名、経済界八名、女性代表三名、計二十一名の方々が初代総代として選任されました。

八月八日大安に沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザに於いて設立総会が催され、座喜味会長より挨拶、伊藤宮司より今後の展望について趣旨説明がありました。続いて総代会の代表、副代表の選出があり、代表に比嘉良雄氏、副代表に宮城繁氏が選ばれました。その後は、意見交換がなされ昼食をとりながら懇親し、和やかなうちに設立総会を終了しました。

総代会委員

比嘉　良雄	沖縄都市モノレール㈱代表取締役社長	
宮城　繁	(財)沖縄県傷痍軍人会 会長	
新門　竹一	沖縄県遺族連合会 副会長	
島袋　秀子	沖縄県遺族連合会 副会長 女性部長	
赤嶺　進	沖縄県遺族連合会 事業部長	
大嶺　正光	那覇市連合遺族会 会長	
當山　幸宏	沖縄県遺族連合会 事業委員	
宮城　篤正	英霊にこたえる会沖縄県本部運営委員長	
小西　忠	(社) 沖縄海友会 副会長	
中地　昌平	日本会議沖縄県本部 会長	
惠　忠久	国旗国歌推進沖縄県民会議 会長	
知念　榮治	(社)沖縄県経営者協会 会長	
島袋　周仁	(社)沖縄県工業連合会 会長	
大城　宗憲	㈱南都 代表取締役社長	
仲本　興成	㈱仲本工業 代表取締役会長	
儀間　慶太	ジーマ㈱ 代表取締役社長	
山内　昌宏	㈱山内産業 代表取締役社長	
奥村　幸定	(社)那覇青年会議所 理事長	
長濱　文子	長濱グループ 会長	
秦　宗文	(社)茶道裏千家淡交会沖縄支部 幹事長	
熊谷フサ子	(社)日本和裁士会沖縄県支部 顧問	

総代のみなさん（設立総会にて）

就任ごあいさつ

総代会代表
比嘉　良雄

神社の仕組が改り今年から総代制度がはじまりました。

その初代の代表に、はからずも推されて就任することになりました。身のしまる思いです。

受けた理由が三つあります。

その一つは、日頃から敬愛する嶺井政治理事、座喜味和則代表役員の要請があったこと。

その二つは、我が沖縄都市モノレール社は、一日に約四万人のお客様をお運びしています。一時的にせよ、その方々のお命をお預かりしている仕事です。その基本は「安全」で役職員一同、日夜最大の注意を努力を払っていますが、神仏にぬかづき、安全を祈願することも忘れません。

我が社は護国神社に参拝しています。開業以来五年余、お陰様で無事故でございます。

その三つは、私は、昭和三十四年オリオンビール株式会社に入社しました。

社長は当時沖縄経済界の四天王の一人と言われた具志堅宗精翁でした。

翁は去る大戦時の那覇警察署長で、島田知事、荒井警察部長はじめ上司、同僚、多くの部下を亡くしました。

散華した仲間のとむらいが生き残った者の責務だといい、自ら護国神社の会長となり再興に尽力しました。真剣でした。よって、翁の主宰する企業グループ「琉鵬会」が本殿造営の中心になりました。

昭和五十四年、翁の死後、第二代目会長長嶺秋夫先生の下で、私は、具志堅翁のかわりとして理事を数年つとめました。事務局を預かっていた仲田様や加治様にもお世話になりました。浅からぬご縁がございます。

「崇敬心は篤いか」と問われれば答えにつまるのが現状ですが、先輩諸氏のご指導ご助言をいただいて鋭意つとめていきたいと思います。

（三ページより続き）

その後外間守善氏（沖縄学研究所所長）につかれて、二十首におよぶ琉歌をお作りになっておられますが、一番最近のお歌は国立劇場の前に建っている歌碑（表紙裏頁写真・説明）に刻まれています。

おもろ植物園もそうであるようにこの劇場も陛下のお言葉がきっかけでできたが故か、こけら落としの平成十六年一月二十三日には、誰か皇室か宮家のものの差遣案を聞かれて陛下御自らが行幸啓をお申し出になられとのことです。この琉球舞踊の天覧行幸啓まで先の皇太子時代から八回に及ぶ御来島です。いかに沖縄を肝入れて御配念下さっているか、まことに忝なく存ずる次第であります。

昭和天皇の大御心を引き継いで、厳修されていることでもうひとつ、宮中祭祀のことがあります。いまや名だたる反日歴史学者原武史氏でさえ今上陛下の精勤さに瞠目し、皇室堅持論を破壊する目的で陛下の祭祀厳修を揶揄しはじめているぐらいです。

皇室の本質は「祈りです」と美智子皇后さまが仰っていますように常に常に国民・人類の安寧平和を祈念し続けて下さっている、歴代希有の聖天子今上陛下の御治世二十年の祝年の年に当神社第五十回秋季例大祭を迎えることができる僥倖をしみじみと噛みしめ関係者皆様と共に同慶の意を表する次第であります。

▲『嗚呼沖縄戦の学徒隊』金城和彦（著）原書房より

沖縄県護国神社戦後の歩み

昭和三二年一〇月一六日
沖縄市町村会の支援のもと靖國神社奉賛会沖縄地方本部が発足

昭和三四年一月二三日
那覇市と靖國神社奉賛会沖縄地方本部との間で旧境内地一部の賃貸借契約を締結

昭和三四年四月二五日
七・二五坪の仮社殿建立

昭和三四年四月二六日
第一回春季例大祭斎行

昭和三四年一一月一五日
各都道府県出身沖縄戦戦没者の御霊代を合祀し、
第一回秋季例大祭を斎行

［説明］
旧指定護国神社は、通常一府県一社とされ、御祭神の範囲は、神社の所在する道府県の区域、すなわちその県出身の軍人軍属となる。しかし、唯一の地上戦がなされた沖縄県の特殊事情から本神社には、沖縄戦にて散華された各都道府県出身の軍人軍属が本県出身者と併せて祀られている。

昭和三五年六月二七日
靖國神社奉賛会沖縄地方本部を発展解消し、財団法人沖縄戦没者慰霊奉賛会発足

昭和三七年三月一四日
財団法人沖縄戦没者慰霊奉賛会が分離し、社団法人沖縄県護国神社復興期成会設立

昭和三七年六月二七日
那覇市議会本会議にて旧境内地返還要求が可決

昭和三八年一月一日
湯川秀樹博士夫妻参拝

昭和三八年一月二三日
沖縄市町村会総会にて護国神社復興資金の募金を市町村毎に分担協力することが通知される。
またこの頃、全琉の小中学校にて一セント募金が行われる

▲琉球政府時代に建てられた現在の那覇市役所庁舎

さらに神社本庁・全国知事会・靖國神社・全國護國神社會他から寄付が寄せられた

昭和四〇年八月一九日
佐藤栄作総理大臣正式参拝

昭和四〇年一〇月二四日
本殿拝殿を新築し境内付属施設を完備

天皇陛下より幣饌料御下賜
昭和四〇年十一月一九日
再建遷座奉祝祭

昭和四〇年一一月一九日
本殿遷座祭斎行

工事は、総工費七万六千ドル、社殿の設計をライト工務店、工事請負を仲原組、境内付属施設を國場組、社殿装飾を高田商店が請け負った。

天皇陛下より遷座祭にあたり幣帛料の御下賜があった。陛下が深い思召しを寄せられたのは、御祭神が日本本土各都道府県にわたること、沖縄が直接戦場となって多くの犠牲者を出し

たことに対する哀悼の大御心と拝される。

昭和四〇年一一月二〇日
復興奉祝祭斎行
北白川祥子様、神宮坊城俊良大宮司、靖國神社筑波藤麿宮司、神社本庁佐々木行忠統理、全国知事会代表木下郁大分県知事他多数が参列

昭和四一年四月一九日
第三鳥居並びに歌碑が奉納

昭和四一年十一月十二日
現社務所を新築

昭和四二年六月二三日
全國護國神社會に加入

昭和四二年七月二〇日
社団法人沖縄県護国神社復興期成会は解散し、財団法人沖縄県護国神社奉賛会設立

昭和四三年二月四日
九州地区護国神社会に加入

昭和四七年五月一四日

▲市ケ谷記念館　▲第9師団が抜けたことによる防衛陣地の変化。『沖縄悲遇の作戦』稲垣武（著）光人社より

祖国復帰奉告慰霊大祭斎行

天皇陛下より幣饌料御下賜
昭和四七年五月十五日
復帰記念奉祝祭

昭和四七年五月一五日
戦没者慰霊祭斎行

昭和四八年一二月一八日
沖縄県護国神社として沖縄県知事より宗教法人の認証
（財団法人沖縄県護國神社奉賛会は発展解消）

天皇陛下より幣饌料御下賜
昭和五〇年十一月二三日
終戦三十周年記念大祭

昭和五三年三月三一日
現社務所を増築

昭和五五年九月二一日
神楽殿新築工事竣工

昭和五六年七月一五日
那覇市より旧境内地返還され登記完了

※英霊でもある北白川宮永久王殿下の妃。当時、靖國神社崇敬者総代

※戦没者全員の名前が記された霊璽簿が本殿に奉安されている

昭和五八年三月四日
石垣修復工事竣工

天皇陛下より幣饌料御下賜
昭和六〇年十一月二三日
終戦四十周年記念奉幣祭

昭和六二年一二月二三日
第一鳥居老朽化により新たに建立

平成二年六月二九日
参集殿（旧社務所）が返還され登記完了

天皇陛下より幣饌料御下賜
平成五年四月二三日
第四十四回全国植樹祭

平成七年九月七日
沖縄県遺族連合会より終戦五十周年記念事業として「平和の像」奉納

天皇陛下より幣饌料御下賜
平成七年一〇月二三日
終戦五十周年記念奉幣祭

※沖縄県護国神社は"県護持"を目指している

※県営平和祈念公園パンフレットには世界の人種、国家、思想、宗教のすべてを超越したと記されている

平成八年一二月一七日
国旗・県旗掲揚台及びポールの改築奉納

平成九年九月七日
神楽殿裏倉庫新築工事竣工

平成一二年三月二七日
社史『沖縄県護国神社の歩み』を刊行

平成一二年一〇月一日
社報『うむい』を創刊

平成一二年一〇月五日
社号碑・石燈籠二基奉納

平成一四年五月八日
沖縄県神道青年会創立二十周年記念「沖縄南方全戦没者合同慰霊祭」斎行

平成一四年六月八日
神道青年全国協議会主催沖縄本土復帰三十周年記念「沖縄県全戦没者慰霊祭及び世界平和祈願祭」斎行

天皇陛下より幣饌料御下賜
平成十六年一月二三日
県内事情御視察（国立劇場おきなわ開場）

平成一六年一月三〇日
奉幣奉告祭斎行

平成一六年二月二九日
針の碑除幕式

平成一七年七月九日
社務所増築工事竣工

天皇陛下より幣饌料御下賜
平成十七年一〇月二三日
終戦六十周年臨時奉幣祭

平成一八年正月
正月三ヶ日
参拝者二十二万五千人で、初めて二十万人を突破（警察発表）

平成二十年十月二三日
第五十回記念秋季例大祭

▲『嗚呼沖縄戦の学徒隊』金城和彦(著)原書房には勇敢な沖縄の少年や少女たちの記録が多くある

▲靖國神社に参拝する人々

▲現在の社務所は正式参拝者をもてなすにはとてもせまい

漫画：益田健太郎（靖國神社崇敬奉賛会青年部あさなぎ部員）　監修：沖縄県護国神社社務所

永代祭新規申込御芳名

（平成十九年九月一日より平成二十年八月三十一日）

・埼玉県所沢市　関フクエ様

永代祭御供奉納者御芳名

（平成十九年九月一日より平成二十年八月三十一日）

・沖縄県浦添市　濱松　昭　様
・愛知県刈谷市　丹村　要二　様
・沖縄県那覇市　高江洲　愛子　様
・岐阜県岐阜市　熊崎　つや　様
・岐阜県岐阜市　岡田　きよ子　様
・和歌山県有田郡　西本　とよ子　様
・北海道函館市　対馬　ミツエ　様
・沖縄県那覇市　高江洲　愛子　様
・東京都武蔵山市　渡邊　三郎　様
・北海道足寄郡　大竹口　重幸　様
・三重県志摩郡　杉木　茂樹　様
・沖縄県那覇市　屋良　朝正　様
・沖縄県那覇市　与儀　シゲ　様
・北海道古宇郡　澤田　政枝　様
・福島県いわき市　渡辺　勝美　様
・沖縄県那覇市　伊志嶺　幸子　様
・愛知県犬山市　吉野　幸雄　様
・神奈川県横浜市　久保井　淑子　様
・北海道美貝市　馬面　美枝　様
・北海道十勝郡　背戸田　登　様
・熊本県山鹿市　岡部　ハツ子　様
・千葉県千葉市　布施　茂　様
・岐阜県岐阜市　江崎　明美　様
・北海道札幌市　天野　喜美　様
・北海道札幌市　櫻井　朋子　様
・神奈川県鎌倉市　関　政子　様
・北海道札幌市　北川　安子　様
・北海道千歳市　工藤　イク　様
・三重県津市　吉川　ヤ　様
・北海道札幌市　櫻田　ミツ　様
・北海道札幌市　長野　洋子　様
・石川県金沢市　渡辺　アヤ　様
・北海道札幌市　古川　きみ　様
・長野県長野市　菅原　スノ　様
・埼玉県鴻巣市　菊地　周一　様
・岩手県盛岡市　瀬川　淳　様
・岩手県花巻市　瀬川　タエ　様
・滋賀県大津市　藤本　道子　様
・北海道二海郡　服部　正春　様
・大分県玖珠郡　中島　美千代　様
・山梨県甲府市　佐藤　ひでの　様
・北海道函館市　伊藤　和子　様
・滋賀県大津市　福永　博　様
・神奈川県横浜市　松本　敬子　様
・埼玉県比企郡　福岡　英男　様
・北海道苫前郡　土田　千代　様
・東京都八王子市　石上　順子　様
・高知県南国市　西原　隆稜　様
・沖縄県石垣市　瀬名波　長宏　様
・徳島県阿南市　幸田　かね　様
・北海道札幌市　北村　孝子　様
・兵庫県淡路市　荒川　文子　様
・愛知県豊橋市　小野　よし子　様
・茨城県取手市　大塚　修巳　様
・岡山県津山市　石川　好蔵　様
・東京都江戸川区　岡田　昌久　様
・東京都荒川区　川俣　雄弘　様
・熊本県熊本市　松尾　雪子　様
・北海道札幌市　植松　香　様
・滋賀県栗東郡　堀池　四郎　様
・愛知県一宮市　後藤　修士　様
・愛知県名古屋市　近藤　義文　様
・北海道札幌市　川上　ふさゑ　様
・北海道網走郡　成田　静子　様
・愛知県稲沢市　川口　日出　様
・三重県伊勢市　村井　重男　様
・滋賀県甲賀郡　宿谷　長次　様
・千葉県市川市　松永　修巳　様
・愛知県豊橋市　君子　様
・静岡県焼津市　牧　まさ　様
・三重県伊勢市　松田　とめ　様
・愛知県岡崎市　外山　はる子　様
・北海道札幌市　内藤　栄二　様
・北海道北見市　沼田　義治　様
・大阪府堺市　十良沢　親也　様
・愛知県海部郡　恵　一郎　様
・北海道上川郡　氣田　阿部　様
・第三十二軍司令部　勇魂の碑遺族戦友会様
・東京都世田谷区　岩井　富子　様
・北海道江別市　田村　文雄　様
・石川県小松市　南出　春子　様
・宮城県黒川郡　菅原　義則　様
・福井県福井市　野阪　かよ子　様
・福井県福井市　野阪　重信　様
・沖縄県那覇市　与那嶺　文子　様
・北海道札幌市　河野　敏子　様
・愛知県津島市　加藤　恵一　様
・愛知県稲沢市　下田　方子　様
・北海道札幌市　加藤　勤　様
・東京都調布市　米澤　務　様
・京都府八幡市　斉藤　金蔵　様
・那覇市首里　安里　勲　様
・徳島県徳島市　田中　静子　様
・東京都台東区　諸橋　悌夫　様
・沖縄県中城村　宮平　オトメ　様
・北海道札幌市　天野　喜美　様
・北海道札幌市　鶴原　正規　様
・北海道雨竜郡　田中　英子　様
・北海道函館市　伊藤　和子　様
・北海道札幌市　竹川　チヨ　様
・神奈川県横浜市　高津　菊枝　様
・福岡県福岡市　大橋　温子　様
・福岡県大牟田市　小柳　昌敏　様
・神奈川県横浜市　松本　敬子　様
・愛知県一宮市　原　江つ　様
・広島県安芸郡　高橋　正明　様
・佐賀県三養基郡　立石　博義　様
・福井県喜多方市　田中　昭二　様
・北海道札幌市　鳴海　美栄子　様
・大阪府大阪市　三木　ツネ子　様
・北海道江別市　田村　文雄　様
・徳島県徳島市　田中　静子　様
・神奈川県横浜市　山本　太一郎　様
・熊本県熊本市　松尾　雪子　様
・愛知県稲沢市　川口　日出　様
・北海道函館市　佐藤　武司郎　様
・岐阜県中津川市　岡山　孝平　様
・北海道中川郡　青木　位　様他4名
・北海道札幌市　川上　房江　様
・北海道函館市　福澤　一蔵　様
・千葉県八街市　黒木　好仁　様
・沖縄県中城市　宮平　オトメ　様

新参集殿御造営奉賛金奉納者御芳名

（平成十九年九月一日から平成二十年八月三十一日までの御奉納者）

百万　北海道札幌市　西川ユキ・西川喜紹様
十万　北海道函館市　時田ミユキ様
六万　北海道札幌市　浅田興屋様（累計十一万円）
二万　沖縄県那覇市　中澤　恵子様（累計五万円）
二万　北海道札幌市　坂爪富雄様
一万　歩兵第七二事隊　小野　等様
一万　福岡県大牟田市　小柳昌敏様
一万　愛知県一宮市　後藤修士様

社務日誌抄

平成二十年四月～八月
（平成十九年九月～平成二十年三月は「うむい小」一号に掲載）

四月

・一　日　東京都ガールスカウト第一六八団正式参拝
・二　日　雲八幡宮正式参拝
・一五日　沖縄京都の塔奉賛会十一名正式参拝
・一五日　大分県護国神社職員研修第一班五名正式参拝
・二一日　大分県護国神社職員研修第二班八名正式参拝
・二二日　**宵宮祭**
・二三日　**第五十回春季例大祭**
・二四日　広島県神道青年会十二名正式参拝
・二六日　大阪府遺族連合会五十九名自由参拝
・二九日　**昭和祭**

午前十時祭典が斎行され神社役員ほか崇敬者参列のもと、厳かに行われました。宮司祝詞奏上のあと「浦安の舞」が奉奏されました。この舞の歌詞は昭和天皇の御製です。

昭和天皇御製

天地の
　神にぞいのる
　　朝なぎの
海のごとくに
　波たゝぬ世を

神楽「浦安の舞」

祭典終了後は伊藤宮司による宮司著『動ぎなき天皇国日本』を用いて昭和天皇のご聖徳を偲ぶ講話がありました。

・二九日　沖宮例大祭参列

六月

講話をする宮司

・二　日　滋賀県遺族会七十三名正式参拝
・一三日　いわお戦友会慰霊祭奉仕
・一七日　しづたまの碑慰霊祭奉仕
・一八日　靖國神社山口建史権宮司ほか二名正式参拝
・二二日　**勇魂の碑慰霊祭奉仕**

この慰霊碑は牛島満中将率いる第三十二軍司令部の碑で平和記念公園内のこの部隊が居たとされる壕の付近に設けられています。長野英夫参謀の夫人（現在岩井富子さん）の呼び掛けにより遺族の夫人達「球守会」が昭和四十二年に建立したものです。三年前からこの日に宮司斎主により関係者参列のもと永代慰霊祭を行っています。

紅白のバラで飾られた勇魂の碑

五月

・五　日　生天光神明宮例大祭参列
・一三日　福島県女子神職会自由参拝
・一五日　**沖縄本土復帰記念祭**
・一七日　波上宮例大祭参列
・二二日　阿含宗水子供養祭参列
・二二日　埼玉県遺族連合会四十六名正式参拝
・二三日　**沖縄戦戦没者慰霊祭**
・二三日　日本遺族会正式参拝
・三〇日　**大祓式**

七月

・二　日　大神神社鈴木寛治宮司以下総代十五名正式参拝
・四　日　海上挺進隊慰霊祭奉仕
・一七日　高知県遺族会中内会長ほか三名正式参拝
・二〇日　明治神宮農林水産奉賛会十名正式参拝

八月

・八　日　沖縄県護国神社総代会設立総会
・一五日　**終戦記念日みたま祭**
・一七日　白光真宏会世界平和祈願祭奉仕
・一九日　群馬県遺族の会児童生徒十八名正式参拝
・二〇日　靖國神社小方総務部長ほか一名正式参拝
・二一日　八重瀬町高知児童生徒交歓会二九名正式参拝
・二二日　立木神社大垣豊樹様市川貴弘様正式参拝
・二二日　対馬丸慰霊祭参列

お祓いを受ける子供達

第二十八代沖縄県知事島田叡を称え顕彰碑除幕式斎行

六月二十八日（土）摩文仁が丘の「島守の塔」の前にて顕彰碑の除幕式が斎行されました。これは、兵庫県出身で終戦前最後の沖縄県知事島田叡氏の母校である兵庫県立兵庫高校（旧制神戸二中）が創立百周年を迎えるにあたり同窓会（武陽会）の記念事業で献納されました。

宮司祝詞奏上

献花をする仲里沖縄県副知事
祝辞を述べる齋藤兵庫県副知事

そもそもこの事業の発案は当神社の伊藤宮司であり、宮司は兵庫高校卒で島田知事の後輩に当たります。宮司は沖縄と兵庫県との絆を絶やさないためばかりでなく、本土と沖縄との一体感を深く正しく保ち続けるためにも平和国家日本の保持発展のため犠牲となった先人たちを忘れないためにも、今回の顕彰碑を建立することを思い立ち同窓会に提案し、実現に至りました。

島守の塔の左側に建立された顕彰碑

友愛パーティーにクルム伊達公子さんも

当日は午後二時に祭典が始まり宮司祝詞奏上後除幕の儀が行われ、沖縄県知事の献花が供えられました。続いて兵庫県立第二神戸中学校（兵庫高校の前名称）の校歌を同窓会の皆さんで斉唱し発起人代表が祭文を奏上ののち、巫女がみたま慰めの舞を奉奏しました。沖縄県神道青年会の協力助勤によって祭典は盛大に執り進められ、兵庫県沖縄県の両副知事も参列し祝辞を述べられました。

祭典終了後は市内ホテルにて兵庫県と沖縄県の友愛パーティが行われ特別ゲストに兵庫県出身のクルム伊達公子氏が参加され両県の懇親も深めました。

さらに、八月二十九日には兵庫高校の庭に同製の小型顕彰碑が同じように献納されました。当社より伊藤宮司と秋永権禰宜が出向し神戸市長田神社の協力を得てこちらも無事に除幕式が斎行されました。

スピーチをするクルム伊達公子氏

沖縄護国神社恒例祭

・一月一日　歳旦祭
・一月三日　元始祭
・二月三日　節分祭
・二月十一日　紀元祭
・二月十七日　祈年祭
・春分の日　春季皇霊祭逢拝式
・四月二十二日　宵宮祭
・四月二十三日　春季例大祭
・四月二十九日　昭和祭
・五月十五日　復帰記念祭
・六月二十三日　沖縄戦没者総合慰霊祭
・六月三十日　大祓式
・八月十五日　終戦記念日みたま祭
・秋分の日　秋季皇霊祭逢拝式
・十月十七日　神嘗祭遙拝式
・十月二十二日　宵宮祭
・十月二十三日　秋季例大祭
・十一月三日　明治祭逢拝式
・十一月二十三日　新嘗祭
・十二月二十三日　天長祭
・十二月三十一日　大祓式・除夜式
古神札焼納祭

※尚　毎月一日　月首祭
二十三日　月次祭
成人祭・敬老祭・七五三祭
他　祥月命日　永代慰霊祭
毎朝　日供祭

御奉納いただきました

〈敬称略〉

玉串料御奉納者名（社務日誌掲載以外）

・札幌市南区　田中光雄様
・札幌市南区　田中　昇様
・東京都杉並区　永江太郎、良子様
・兵庫県神戸市　富田和雄様
・青森県西津軽郡　七戸ヒサ様
・北海道磯谷郡　下條　司様
・北海道岩見沢市　佐川コト様
・北海道北斗市　栗田利子様
・岐阜県岐阜市　福島みつ子様
・岐阜県岐阜市　岡田きよ子様
・岐阜県養老郡　早崎　昇様
・東京都調布市　石田　壽様
・東京都練馬区　山中　緑様
・東京都中野区　中村由喜子様
・神奈川県高座郡　吉田博國様
・神奈川県鎌倉市　高橋岳禮様
・愛知県名古屋市　井川敏子様
・兵庫県神戸市　半田ゆき子
・神奈川県横浜市　濱田静子様
・沖縄県那覇市　故太田政弘様
・長崎県長崎市　中村安代様
・広島県広島市　岡本貞雄様
・和歌山県新宮市　平見勝子様
・愛知県一宮市　伊藤由三様
・京都府京都市　長　みゆき様
・東京都武蔵村山市　下川正子様
・滋賀県高島市　木津明彦様
・埼玉県樋川市　臼田智子様
・埼玉県さいたま市　吉澤吉治様
・神奈川県横浜市　竹川吉久様
・兵庫高校武陽会四十四陽会様

寄贈図書

・「日本人がいなくなる」（三好　誠著）　大阪護國神社様
・「天皇道」（荒沢義美著）　著者より
・「やすくにの四季」　近代出版社　青柳英介様
・「歩いてきた道」　沖縄県遺族会婦人部様
・「靖國神社遊就館図録」近代出版社　青柳英介様
・「あらたま」　荒魂之會様
・「まーぢ」　真和志遺族会様

御奉納品物

・正面幕　㈱ジーマ、ジーマックス　様
・正月参拝者用御神酒　二樽　㈱ジーマ、ジーマックス　様
・樽酒　龍華会　様
・泡盛　㈱久米島の久米仙　様
・国旗　たけや旗染店　様
・額入り国旗　三木京三　様

巫女　木原章子

今年の十月より奉職いたしました。新しい環境の中で分からないことが多く不安でしたが、今は毎日学ぶことができ新鮮で楽しいです。まだまだ力不足ではありますが、一生懸命ご奉仕させていただきますので宜しくお願い致します。

編集後記

今年は戦後第一回目の例大祭から数えて五十回目の年を迎え、今回「特別号」を組みました。「沖縄県護国神社～戦後の歩み～」と題し、マンガにてこれまでの歩みを振り返ってみました。そこであらためて、神社の復興に尽力なされた先人の方々の思いをしっかりと受けとめ、その思いを風化させてはいけないと思った次第でございます。

発　行　平成二十年十月一日
発行所　沖縄県護国神社
〒九〇〇―〇〇二六
沖縄県那覇市奥武山町四四番地
TEL〇九八―八五七―二七九八
FAX〇九八―八五七―七九一七
編集担当　加治　順人
印刷所　㈱うるま印刷

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「思い、願望、考え、所存」のことを「ウムイー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の思いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

ホームページアドレス　http://www.okinawa-gokoku.jp/